迎春

2022年頭のあいさつ

人が輝くまちづくりに前進

登米市長
熊谷（くまがい） 盛廣（もりひろ）

新年、明けましておめでとうございます。

２０２２年の新春を皆さまとともに迎えることができましたことを、心からお喜び申し上げます。

本市にも冬の使者である白鳥が飛来し、今まさに凛とした寒さに包まれる中、市長として2期目となります本年の市政運営に向けて、改めて気が引き締まる思いであります。

さて、新型コロナウイルス感染症の拡大は、地域経済に大きなダメージを与え、市民生活はもとより農業においても、米価の大幅な下落のほか、飲食業や観光業、製造業などあらゆる業種にその影響が及びました。

そんな中、ＮＨＫ連続テレビ小説「おかえりモネ」が全国放送されたことで、本市の林業にも明るい光が差し込み、木工品の売り上げや観光客の増加にもその効果が表れてきたところであります。

こうした盛り上がりをしっかりと持続させ、関係人口の拡大や移住・定住の促進、観光振興などを通じ確実に経済効果に波及させ、市内全体の活性化へつなげてまいりたいと考えております。

また、オリンピック・パラリンピックに出場したボーランドボート競技代表選手団の事前合宿は、コロナ禍の中さまざまな課題を乗り越え無事に実施することができました。

市民の皆さまとの交流事業は、感染症対策としてオンラインを活用する方法となりましたが、私たちの「おもてなしの気持ち」はポーランドボートチームへ伝わり、銀メダルを獲得する原動力の一部となったものと捉えております。

優先接種者から順次始まったコロナワクチン接種についても、一般接種者の集団接種を昨年の9月末日で終了するなど、市民の皆さまには、スムーズな接種にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

ご尽力をいただきました医療関係者の皆さまをはじめ、社会機能を維持するために、福祉、インフラ運営などの各分野において、事業を継続いただきました関係者の皆さまには重ねて感謝申し上げます。

私は、2期目の市政運営にあたり「安全安心に暮らせるまちづくり」「地域医療の充実」「教育振興」「人口減少対策」「産業振興」「健康なまちづくり」「効率的な行財政運営」の7つに力を注ぎ、「未来につなげるまちづくり」を推進していく考えであります。

本年においては、市内経済と市民生活の立て直しが急がれることから、市民の皆さまの安全・安心に繋がる取り組みを最優先としながら、ウィズコロナやアフターコロナを強く意識し、次世代を担う子どもたちから高齢者まで、本市に暮らす一人一人が輝き、そして愛着の持てる「笑顔と元気があふれる登米市」を目指し取り組む所存です。

これからも本市の将来像である「あふれる笑顔 豊かな自然 住みたいまち とめ」の実現に向け、多くの皆さまのお力添えをいただきながら、市民の皆さまとともに、一歩一歩着実に歩みを進めてまいりますので、なお一層のご支援をお願い申し上げます。

結びに、新しい一年が皆さまにとりまして、希望に満ち、健康で笑顔あふれる年となりますよう心からお祈り申し上げまして、新年のあいさつといたします。

6つの知を養い心をひとつに

登米市議会議長
關（せき） 孝（こう）

新年、明けましておめでとうございます。

市民の皆さまには、コロナ禍の困難な年が明け、それぞれの抱負や希望を胸に、新年をお迎えのことと思います。

昨年の市議会議員選挙において、新たな26名による登米市議会5期目がスタートしました。市民皆さまから信頼される議会として、行政に対する監視および評価ならびに政策立案・提言等に係る機能を十分に発揮すべく、今後もその強化と研さんに努めてまいります。

昨年は、本市が舞台地の一つとして撮影されたＮＨＫ連続テレビ小説「おかえりモネ」が放送され、登米の魅力がまさに〝なないろ〟に輝いた年でした。豊かな自然や伝統文化など、たくさんの魅力と人々の思いの虹が本市から全国各地へと懸かっていく素晴らしい機会となりました。この作品との出会いによって、今後ますますの交流人口の拡大、地域の活性化に弾みがつくものでありましょう。

また、登米総合産業高等学校が環境保全米栽培の取り組みにより、「第9回オリザ賞」で大賞を受賞されたことは、先人の思いと取り組みが受け継がれ、これからも登米の大地に豊かな実りをもたらすことと思います。

さて、長期化する新型コロナウイルス感染症の影響により、日本の食材供給基地である本市は、米価の大幅な下落、農畜産物などの販売不振が続き、感染防止に伴う飲食店の利用制限、イベントの中止など地域経済に大きな影響を及ぼしております。

引き続き、関係機関と連携しながら、感染防止対策や更なる経済支援対策が講じられるよう政策提言してまいります。

中国・宋の時代の賢人・李繹（りえき）という人物は「五知先生伝」に出ている言葉で、5つの「知」を得ることで、難局を乗り越えられると説いています。

私なりの解釈ですが、

「時」を知ること＝時代の流れを的確に捉えること

「難」を知ること＝今、何が問題なのかを把握すること

「命」を知ること＝自分には何ができるのか、自らの使命を見極めること

「退」を知ること＝物事の終わりを見極めて、そのタイミングを見計らうこと

「足る」を知ること＝日々の生活の中に満足を見出すこと

この5つの「知」を養うことで難局に立ち向かうことができるという訓（おし）えです。

登米市議会は、激しい社会環境の変化に伴って多様化・複雑化した地域の課題解決という難局に立ち向かうにあたり、この5つの「知」を養い得て、そこに6つ目の「知」＝市民の「声」を知ることを加え、市民の皆さまの思いをしっかりくみ取ってまいります。

そして、今、市政の取り組むべきニーズと課題を的確に捉え、「安心して暮らせるまちづくり」にまい進し、市民の皆さまと心をひとつにして、職務を果たしていく所存です。

結びに、壬寅（みずのえとら）年は「冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力にあふれ、華々しく生まれる年になる」といわれます。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息を願うとともに、この一年が平穏で災害のない、市民の皆さまにとって輝かしい年となりますよう、心からご祈念申し上げ、新年のあいさつといたします。